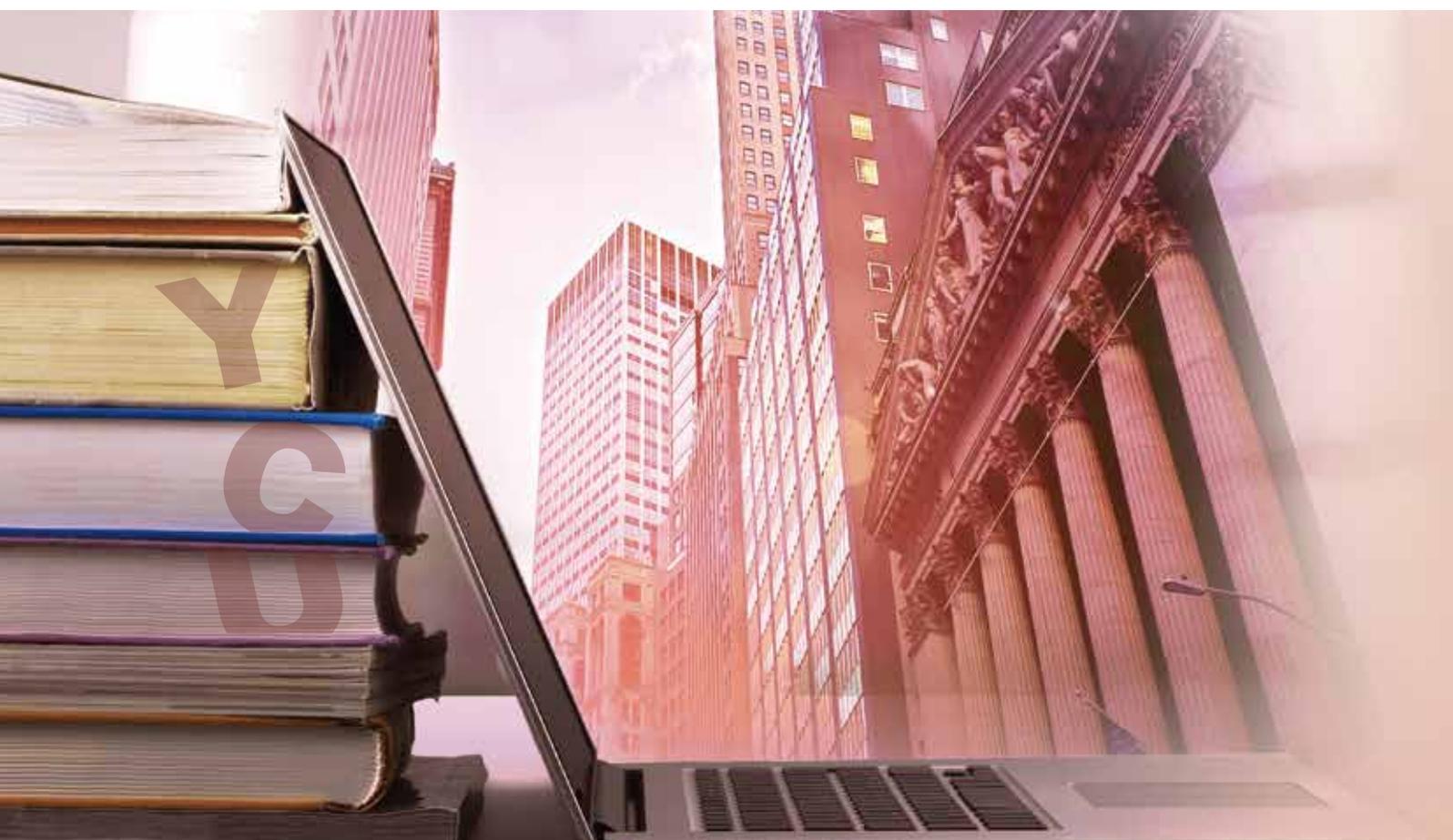


国際商学部



こんな学びを志向する人に

-  企画立案する方法や起業する方法を学びたい
-  「経営学」と「経済学」を1年間学んでから深く追求する学問を決めたい
-  金融機関の活動や金融などの政策について学びたい
-  さまざまな専門職(公認会計士、税理士)を目指したい
-  グローバル企業で活躍するための経営管理能力を身に付けたい
-  民間企業から公務員まで、幅広く自分の可能性を広げる学びをしたい

国際商学部の特色

国際商学部は、経営学・経済学を中心とする学問的専門性に基づき、現実の国際的な労働・製品・金融市場の動向を踏まえた社会経済活動を学ぶと共に、国際商業都市・横浜という地域での学びを通して、既成概念にとらわれない課題発見力と企画立案力、そして実業界で役立つ確かな英語力を培います。また、文理融合的思考力を養い、数理解理解力やデータ分析力等を生かした特色ある教育を行います。これらの教育を通して、グローバル企業に必要な経営管理能力や新事業を創造する企画立案力を備え、学問的な専門性に裏付けられたマネジメントに関する高度な「実学」力により、実業界や公的組織で活躍する幅広い職業人を養成します。

特色1 英語で学ぶ専門科目でビジネスに強い英語力を強化

皆さんが大学を卒業する頃には、会議での公用語が英語となっている企業は増えている事でしょう。そうでないとしても、仕事で英語を使用する機会は確実に増えています。つまり、グローバル企業で活躍するために欠かせないのは、コミュニケーションのための英語力だけでなく、仕事に生かせる実践的な英語力だと考えます。そこで、国際商学部では、英語による専門科目（Global Business Strategy, Advanced Topics in Economics, Introductory Accounting等）を多数学ぶ事ができます。たとえば、Introductory Accounting Iを2年次前期に学修してもらうために、1年次に簿記入門を事前に日本語で学修できるように計画されているので、英語での専門科目の学修も無理なく進める事ができます。

特色2 海外で実践力を養う、海外インターンシップ

グローバル企業は世界各国に支社や事業所を開設しています。日本企業もこれから急速に世界中の都市に進出していく事でしょう。つまり、近い将来、「企業で働く」という事は国内だけでなく海外をフィールドとして活躍する事を意味するのです。そこで、国際商学部ではこれからのビジネスには欠かす事のできないグローバルな視点と経営管理能力を入学後の早い段階から意識し、確実に獲得してもらうため、また、在学中に海外で働く事を体験してもらいたいという思いから、海外企業等へのインターンシップに参加する機会を提供していきます。たとえば、本学卒業生とのネットワークから、シンガポールにあるコニカミノルタビジネスソリューションズアジアでの実習が実現しています。

特色3 データ分析、起業、医療経営など多様な専門性を育成

ビジネスの世界、たとえば、新商品を開発し販売し収益を上げるまでには、どこに工場を建設するのか、原材料はどこから購入するのか、工場の作業員をどのように確保するのか、商品の広告費にいくらかけるのか、そして、商品の価格はいくらにするのか、その他、決断しなければならぬ課題がたくさんあります。こうした課題解決に経営学と経済学の知識は必須です。しかし、今ではこうした課題の解決に経営学や経済学以外の知識も必要となっています。そのひとつが膨大なデータを分析し数値化する能力です。また、経済成長が見込まれない社会で企業が発展していくためには、新事業を創り出す（起業する）ための企画立案力も必要となってきます。その他、人口が減少していく社会では医療に関係する課題も山積しており、こうした諸課題に経営的な視点からの解決が強く求められています。そこで、国際商学部では、本学のデータサイエンス学部や医学部と連携し、「計量経済学」、「起業家人材論」、「医療イノベーション経営管理論」等特色ある科目を設け多様な専門性を育成します。

Message from the Dean

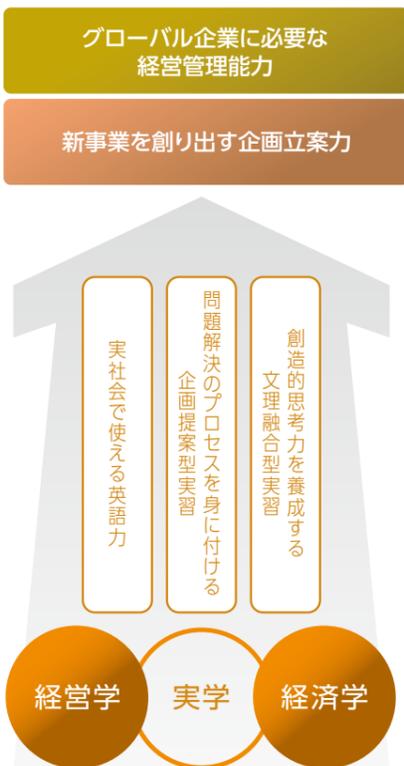
「人と進んで交わり共に資質を高める」という理念のもと豊富な卒業生ネットワークを生かして、グローバル社会で活躍するための実学力を高める。

国際商学部長
大澤 正俊 Masatoshi Osawa

国際商学部は、1928年設立の横浜商業専門学校を開学の祖とし、1949年に新制大学（学校教育法に拠る大学）商学部として発足しました。その後、2005年から国際総合科学部（経営科学系）として、これまで、開国・開港の地である横浜にふさわしく、開放的で国際性・進取性に富む学風は受け継がれ、実践力の溢れる人材を多数輩出してきました。現代社会は、グローバル化、ICT（情報通信技術）の急速な発展、少子高齢化による市場の縮小や労働人口の減少等が、想像以上のスピードで進んでいる状況です。これに伴い大きく変化してきているビジネスの世界でも活躍できるリーダーを養成する事が、これからの横浜市立大学の



使命であると受け止め、2019年4月国際商学部を設置するに至りました。国際商学部でも「人と進んで交わり共に資質を高める」という開学当初からの理念のもと、精力的に実業界と関わりながら実学力（経営学・経済学の専門性に裏付けられたマネジメントに関する実践力）を養っていきます。そのため学外実習では、実業界で活躍している多くの卒業生とのネットワークと国際商業都市である「横浜」というフィールドを生かし、学問的な理論・知識に加え、実践力を高める教育を行い、実業界や公的機関等で活躍できる職業人の育成を目指します。



4年間の学びのイメージ

	1年次	2年次	3年次	4年次
学部の特長	国際商学部の入門科目を学び、基礎を固める	経営と経済の基礎理論を学び、2年次後期から専門ゼミに所属し、専門領域を決定する プレゼミ 英語による専門科目（基礎） 海外留学・学外実習 前期には、海外留学・学外実習として、 ●海外サマーセミナー参加 ●海外企業インターンシップ等 積極的に海外体験を推奨する期間があります。	経営と経済の応用科目からグローバル企業に必要な経営管理能力や企画立案力を学び、専門領域を深める 演習 英語による専門科目（応用）	学修をさらに深化させ、4年間の集大成として卒業論文を作成する 卒論演習
共通	全学開放科目 共通教養科目 教養ゼミ/基礎ゼミ Practical English Advanced Practical English			
領域横断	領域横断型人材育成プログラム			

実践で学ぶための海外体験や実習

1年次は国際商学部の入門科目を学び、2年次には経営・経済の基礎理論をしっかりと学びます。さらに、2年次の6月中旬から9月にかけて、海外企業インターンシップや短期留学等、積極的に海外での体験を積める期間を設けています。そして2年次後期になると専門ゼミに配属され、専門を深めていく事になります。また、国際商学部では、さまざまな企業や自治体と連携した「企画提案型実習」、医学部やデータサイエンス学部とも連携した「文理融合型実習」を設け、アクティブラーニングによる学びで実践的なテーマに挑戦します。



国際商学部専門科目・全学開放科目一覧

専門科目					
医療イノベーション経営管理論 サービス・ビジネス論I サービス・ビジネス論II 公会計論 起業家人材論 起業プランニング論 医療経営論 Global Business Administration Global Business Strategy Global Organization Theory Japanese Industry Japanese Economy Global Leadership Global Service Management Global Human Resource Development Introductory Accounting I Introductory Accounting II Intermediate Accounting International Business Basics of Corporate Analysis and Valuation Global Innovation Management Global Marketing	Advanced Topics in Economics Introduction to IFRSs 民法・物権I 民法・物権II 民法・債権I 民法・債権II 環境法 財務諸表分析I 財務諸表分析II 経済統計I 経済統計II 経済政策I 経済政策II ミクロ経済学I ミクロ経済学II マクロ経済学I マクロ経済学II 行政法I 行政法II 国際金融論I 国際金融論II	金融論I 金融論II 計量経済学I 計量経済学II 経営財務論 財政学I 財政学II 公共経済学 地方自治論 コーポレート・ファイナンス コーポレート・ファイナンス ビジネスエコノミクス 商業簿記I 商業簿記II 会計学原論I 会計学原論II 工業簿記 経営労務 経営組織論 マーケティング論 原価計算論 国際会計論	経営戦略論 マーケティングリサーチ 組織行動論 人的資源管理論 企業論 経営情報論 財務諸表論 コーポレート・ガバナンス コストマネジメント論 イノベーション・マネジメント 経営史 証券市場論 監査論 ベンチャービジネス論 多国籍企業論 管理会計論 企業戦略論 国際財務戦略 生産管理論 リスクマネジメント論	中小企業論 税務会計論 消費者行動論 流通ロジスティクス論 情報の経済学I 情報の経済学II 経済数学 国際経済学I 国際経済学II ゲーム理論 組織文化論 都市経済学 ファイナンス理論 契約理論 産業組織論 労働経済学 社会保障論 地理情報システム論 港湾都市論 資源経済学 環境経済学 経済成長論	景気循環論 金融システム論 公共選択論 地方財政学 会社法 租税法 ビジネス法務 手形小切手法 金融商品取引法 倒産法 サマープログラム インターンシップ実習 企画立案型実習A 企画立案型実習B 文理融合型実習A 文理融合型実習B
プレゼミA	演習I	演習II	演習III	卒論演習I	卒論演習II 卒業論文
専門ゼミ					

SDGsへの取り組み



マーケティング、消費者行動が専門の演習（柴田ゼミ）でSDGsに対応した商品開発

2020年度のコロナ禍で、学生達は自身の食生活と健康を強く意識するようになりました。それが出発点となり、若者の魚食機会縮小や水産業界の在庫不良問題という社会課題に着目しました。そこで、同じ問題意識を持つ南部市場（横浜市金沢区）にある水産会社の（株）横浜食品サービスとの連携 [17（パートナーシップ、連携）] で「魚食拡大プロジェクト」を立ち上げました。何度もマーケティング・リサーチやディスカッションを重ね、まぐろの端材を使った、若者の健康的な食生活に役立つ商品開発 [3（健康に貢献する食）、12（食品ロス）] に取り組みました。本取り組みを、全国の大学生が参加するアグリカルチャーコンペティション（オンライン開催）で発表した結果、審査員特別賞を受賞しました。この活動の一環で、大学生協食堂で「まぐろメニュー」を開発・販売する等、SDGsに対応するマーケティング的アプローチを学んでいます。



国際人育成をモットーとする横浜市立大学では、さまざまな海外プログラムを用意しています。ここでは、2019年より開始された「第2クォータープログラム」についてご紹介します。

メリットの多い期間を利用する、新しい海外プログラムが誕生！

第2クォーター渡航プログラム

リアルな渡航は貴重な体験に。リーズナブルで充実した渡航プログラムを用意しています。



夏休みより長い期間、海外渡航での学びができます。

2020年度の募集実績を基にした内容です。2021年度の第2クォータープログラムについては、全てオンラインプログラムでの実施となります。

2年次前期の後半となる6月～9月に実施するプログラムです。海外で学ぼうとする際、この時期ならではのメリットがあり、それを活かしたのが、この第2クォーターの各プログラムです。

- 夏休みより長い期間海外渡航が可能！
- 日本人が少ない時期に海外渡航できる！
- 豊富なプログラム(学部授業、サマースクール、語学)から選択可能！
- 夏休みや春休みの時期に比べてフライト費用が安価！

- 実施時期 2年次の6月～9月
- 渡航先 右表を参照ください。

詳しい内容はグローバル推進室またはキャリア支援センターにお尋ねください。

渡航先(2019年度実績)	
学部授業	ユトレヒト大学(オランダ) カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国) プリティッシュコロンビア大学(カナダ) ニューヨーク州立大学ストニーブルック校(アメリカ)
サマースクール	ウェスタンオンタリオ大学(カナダ) チェンマイ大学(経済編)(タイ) チェンマイ大学(経営編)(タイ) 高麗大学校(韓国) 淑明女子大学校(韓国/性別は問いません) 国立政治大学(台湾) シンガポール国立大(シンガポール)
英語研修および初習外国語研修	ダブリンシティユニバーシティ(アイルランド) サイモンフレイザー大学(カナダ) トゥーレーヌ語学学院(フランス) マドリッド・コンプランセンセ大学(スペイン) ヴェルツブルク大学(ドイツ) 淑明女子大学校(韓国/性別は問いません)

上記の他に海外インターンシッププログラムもあります。

第2クォーターオンラインプログラム

全てオンラインでの実施となる2021年度の第2クォーター(2Q)プログラムでは、語学を集中的に学ぶことができる語学研修プログラムのほか、世界各地の大学が提供するサマースクールやオンラインコースから選択して履修できるプログラムなど、多種多様なプログラムを取り揃えています。必修科目のない時期だからこそ、特別な学びをしてみたい学生におすすめです。



第2クォーター海外インターンシップ

アメリカ、中国、東南アジアなど、海外の企業で実際に就業体験ができる、YCU独自のプログラムです。2年次の第2クォーターという大学生活の早い段階から海外で働く経験を積むことで、国内外問わず広いフィールドで活躍するために必要な国際感覚やリーダーシップ、語学力などを身に付けることができます。将来、海外へ積極的なビジネス展開を行うグローバル企業で活躍したいと考える方におすすめのプログラムです。実習形式(オンライン/渡航)は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、実習先企業との調整のうえ決定されます。

※海外インターンシップは2年次の第2クォーター以外の期間(8～9月、2～3月)にも参加できます。

教員紹介

Introduction of teachers

 芦澤 美智子 アシザワ ミチコ 准教授 起業家人材論 Michiko Asbizawa	 黒木 淳 クロキ マコト 准教授 管理会計論 Makoto Kuroki	 長畑 周史 ナガハタ シュウシ 准教授 管理会計論 Shushi Nagahata
 岩佐 朋子 イワサ トモコ 准教授 ビジネスエコノミクス Tomoko Iwasa	 小泉 大輔 コイズミ ダイスケ 准教授 人的資源管理論 Daisuke Koizumi	 永松 陽明 ナガマツ アキラ 教授 経営情報論 Akira Nagamatsu
 大澤 正俊 オオサワ マサトシ 教授 民法・物権 Masatoshi Osawa	 坂口 利裕 サカグチ トシヒロ 教授 社会学 Toshihiro Sakaguchi	 原 広司 ハラ コウジ 准教授 医療経営 Koji Hara
 太田 壘 オオタルイ 教授 国際経済学 Rui Ota	 柴田 典子 シバタ ノリコ 准教授 マーケティング論 Noriko Shibata	 中村 祐太 ナカムラ ユウタ 講師 ゲーム理論 Yuta Nakamura
 大塚 章弘 オオツカ アキヒロ 准教授 都市経済学 Akihiko Otsuka	 白石 小百合 シライシ サユリ 教授 計量経済学 Sayuri Shiraishi	 藤崎 晴彦 フジサキ ハルヒコ 准教授 原価計算論 Haruhiko Fujisaki
 小沢 和彦 オザワ カズヒコ 准教授 経営管理論 Kazubiko Ozawa	 随 清遠 ズイ セイエン 教授 金融論 Qingyuan Sui	 三浦 敬 ミウラ タカシ 教授 会計学原論 Takashi Miura
 鴨志田 晃 カモシダ アキラ 教授 サービスビジネス論 Akira Kamoshida	 高橋 隆幸 タカハシ タカユキ 教授 税務会計論 Takayuki Takahashi	 安川 文朗 ヤスカワ フミアキ 教授 医療経営論 Fumiaki Yasukawa
 河瀬 宏則 カワセ ヒロノリ 准教授 経営財務 Hironori Kawase	 張 櫻馨 チャン インシン 教授 国際会計論 YingHsin CHANG	 山藤 竜太郎 ヤマフジ リュウタロウ 准教授 国際経営論 Ryutarou Yamafuji
 康 聖一 カン ソンイル 教授 情報の経済学 Seongill KANG	 中條 祐介 ナカジョウ ユウスケ 教授 財務諸表分析 Yusuke Nakajo	 吉永 崇史 ヨシナガ タカシ 准教授 経営組織論 Takashi Yoshinaga
 鞠 重鎬 クック ジュンホ 教授 財政学 Joongh KOOK	 中園 善行 ナカゾノ ヨシユキ 客員准教授 マクロ経済学 Yoshiyuki Nakazono	 和田 淳一郎 ワダ ジュンイチロウ 教授 公共経済学 Junichiro Wada

YCU キャンパスライフ



1日のスケジュール



高浪 凜

国際商学部国際商学科 3年
横浜市立戸塚高等学校 卒業
ダンス部 ALMA に所属し、仲間と楽しく活動を行っています。また、新たな知見を日々得られるよう、学習支援や単発イベント運営支援等、大学のボランティア支援室を通してボランティア活動にも積極的に参加しています。

6:00 起床
1限から授業の日は早めに起きて準備します。



8:40 大学到着・授業



12:00 PEセンター
(Practical English Center)
のコミュニケーションアワー参加
PEセンターで実施されている、英会話の練習ができるコミュニケーションアワーに参加します。

14:00 自習



13:00 昼食



友達と学食で食べたり、近くにあるイオンのフードコートに行ったりします。

16:00 ボランティア活動
不登校や外国につながる子どもたちを対象とする学習支援のボランティアをしています。およそ週に一回の頻度で参加します。

19:00 帰宅
夕飯を食べてゆっくりします。



ダンス部の仲間と!

一週間の時間割

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
a m	授業 (オンライン)	自習	授業 (オンライン)	自習	授業 (オンライン)	自習	アルバイト
p m	授業 (オンライン)	ゼミ(対面)	授業 (オンライン)	授業(対面)	自習	ボランティア活動	オフ
	自習	自習	部活	部活	アルバイト	オフ	

YCUのおすすめスポット

あまり目立つ部屋ではないですが、大学の奥にある情報教育実習室Fが好いです。パソコンが置いてある部屋で、1年生の前期は自分のパソコンを持っていなかったため、よくこの部屋を利用していました。また、LLテープライブラリーにはDVDやCDが置いてあります。様々な映画を無料で見ることができるので、とてもおすすめです。

LLテープライブラリー



受験対策 Q&A



Q1 横浜市立大学を選んだ理由は?

A. 元々経営学に興味があり、同時に大学時代で留学に行くことも検討していました。横浜市立大学を受験したのは、興味のある学問を学びながら、魅力的な海外留学プログラムに参加できるところに惹かれたためです。

Q2 受験生の時に意識したことは?

A. 一般選抜での入学ではなかったため、高校時代は日々の勉学に力を入れていました。特に、毎日の生活で継続的に勉強する習慣をつけることを大切に、その経験から身に付いた計画性は大学入学後も大いに役立っています。

Q3 受験生へ一言お願いします!

A. 楽しく充実した大学生活を送るために、自分の雰囲気合った大学、学部を見つけて下さい。横浜市立大学に興味がある方は、入学後、共に大学生活を送ることを楽しみにしています!

卒業後の主な進路

- 製造業
 - アイリスオーヤマ株式会社
 - 大塚製菓株式会社
 - 株式会社オカムラ
 - カゴメ株式会社
 - 株式会社クボタ
 - グンゼ株式会社
 - サーモス株式会社
 - サントリーホールディングス株式会社
 - ソニー株式会社
 - 帝人株式会社
 - 日産自動車株式会社
 - 富士フイルムビジネスソリューション株式会社
 - HOYA株式会社
 - 本田技研工業株式会社
 - 三菱電機株式会社
 - 株式会社ヤッホーブルーイング
- 金融・保険業
 - イオンフィナンシャルサービス株式会社
 - auフィナンシャルサービス株式会社
 - かながわ信用金庫
 - 大和証券株式会社
 - 日本証券金融株式会社
 - 野村證券株式会社
 - 株式会社東日本銀行
 - 社団法人福岡県信用保証協会
 - 株式会社みずほフィナンシャルグループ
 - 株式会社三井住友銀行
 - 三井住友信託銀行株式会社
 - 株式会社ゆうちょ銀行
 - 株式会社横浜銀行
- 建設・不動産業
 - NTT都市開発株式会社
 - 五洋建設株式会社
 - 清水建設株式会社
 - 大成建設株式会社
 - 大和ハウス工業株式会社
 - 株式会社長谷工ライブネット
 - 三菱地所ハウスネット株式会社
- 会社
 - 株式会社横浜岡田屋
 - 株式会社ルミネ
 - 広告・コンサルティング・専門サービス業
 - アクセンチュア株式会社
 - UUUM株式会社
 - 株式会社日本総合研究所
 - 株式会社ヒュープロ
 - 株式会社ベイクレント・コンサルティング
 - 公務員・教員・特殊法人
 - 青森県庁
 - 神奈川県庁
 - 皇宮警察本部
 - 厚生労働省
 - 国土交通省
 - 東京国税局
 - 東京都特別区
 - 新潟県庁
 - 防衛装備庁
 - 山梨県庁
- 横浜市役所
 - 商社・卸売・小売業
 - 岩谷産業株式会社
 - 株式会社内田洋行
 - ENEOSグループ株式会社
 - 株式会社大塚商会
 - 株式会社ジーユー
 - 株式会社成城石井
 - 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
 - 株式会社ZOZO
 - 瀧定名古屋株式会社
 - 株式会社ニトリ
 - 日本マクドナルド
 - 株式会社ユニクロ
 - 情報通信業・マスコミ
 - 株式会社インテージ
 - NECソリューションイノベータ株式会社
 - エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
 - 株式会社NTT東日本-南関東
 - 株式会社オービックビジネスコンサルタント
- KDDI株式会社
 - 東日本電信電話株式会社
 - 株式会社日立ソリューションズ
 - 富士フイルムシステムズ株式会社
 - 楽天株式会社
 - その他
 - 神奈川県農業協同組合中央会 (JA神奈川中央会)
 - 中部電力株式会社
 - 株式会社日新
 - パーソルキャリア株式会社
 - 北海道農業協同組合中央会 (JA北海道中央会)
 - 主な進学先(大学院)
 - 東京大学 公共政策大学院
 - 一橋大学国際・公共政策大学院
 - 北海道大学大学院
 - 横浜市立大学大学院
 - 他

国際マネジメント研究科(大学院)

グローバル経済に対応したカリキュラムとサービス・サイエンス研究プログラムの提供

グローバル化が進む企業で活躍できる人材の育成を教育目標としています。この目標を達成するため、博士前期課程では履修科目群を「基礎科目群」と「応用科目群」とで構成し、段階的に専門知識を身に付けていける体制を整えると共に、特定の指導教員による2年間の研究を通し、問題発見、問題解決、プレゼンテーション等の能力の向上を支援します。近年海外から注目されているわが国のサービス・ビジネスについて専門的かつ科学的に研究を進める事を目的とする、「サービス・サイエンス研究プログラム」が提供されている点も、本研究科の特色です。所定のプログラム対象科目を一定単位以上取得した場合、本研究科により、サービス・サイエンス研究プログラム修了者として認定しています。

サービス・サイエンス研究プログラム

サービス・サイエンス研究プログラムは、我が国や諸外国の先進的なサービス・ビジネスについて、専門的かつ科学的に研究できるようにするため開設しました。このプログラムにより民間企業はもちろん、医療・福祉機関、行政機関やNPO等でサービスのスペシャリストとして活躍できる人材の養成を目指しています。

5年一貫プログラム

学部4年次から大学院科目を履修することにより、通常は2年間の在籍が必要となる、1年間で修了(修士の学位を取得)できる制度です。



“データ”と“コミュニケーション”をキーワードとして 大好きな地元・横浜のまちづくりに貢献したいです!

私が大学院進学を決意したのは大学3年生の時です。学びへの好奇心が高まり、研究したいテーマがまとまった事が決め手となりました。また、SDGs達成の目標年である2030年までに何らかの形で社会の役に立ちたいと思い、大学4年次の時間を有効活用して学習を早く展開できる5年一貫プログラムを選びました。

本プログラムの良いところは、学習を早く進めながらも気持ちに余裕を持って研究と向き合えるところです。先生方の手厚いサポート体制が整っているため、先生との距離が近く、疑問点があればすぐに対応いただけます。焦ることなく安心して研究を進めることができるので、様々な課外活動に挑戦したいと考えられる学生にもおすすめです。私自身、研究以外の場所得たアイデアや学びが研究に生かされていると感じています。学生生活をより充実させたいと思う方は是非本プログラムを受けて頂きたいです。



川内 美月

国際マネジメント研究科 博士前期課程1年
私立 森村学園高等部 卒業

